

中部の

エネルギーを 築いた

人々

蚕糸業、電力業、鉄道業など伊那谷の発展に取り組んだ
「峡谷空前の政治家」平野 桑四郎

平野桑四郎(1864~1934)は、長野県下伊那郡伍和村の村長を16年間務め、養蚕業、鉄道業、電力業など多方面で活躍し、県会議員、衆議院議員を務めた政治家である。平野を生涯の盟友で、伊那電気鉄道(当初「伊那電車軌道」として設立)の経営者伊原五郎兵衛は、「峡谷空前の政治家」として高く評価していた。ここでは電気事業への関わりを中心に平野の足跡をたどる。



平野桑四郎(『阿智村誌』)

生涯と業績

平野桑四郎は、元治元年(1864)5月、下伊那郡伍和村栗矢(現阿智村)に、素封家原九右衛門の次男として生まれた。寺子屋時代から頭脳明瞭で英才の誉れが高かった。11歳のとき、伍和村の平野多郎九の養子となった。義父多郎九は、県会議員や伍和村村長を務めた名望家であった。15歳になると、高遠藩の儒者高橋白山のもとで2年間漢籍を学び、明治23年11月、弱冠27歳で智里村の村長に就任した。ここでの実績が評価され、その後の活躍の基礎となった。24年5月下伊那郡会議員になり以降4期14年務め、27年9月

県会議員に選ばれ7期28年を務め、32年から伍和村村長となり4期16年間務めた。県会議員の最後の2期は議長を務め、公平な運営ぶりで名議長と言われ、地方政界に重きをなした。昭和7年の総選挙では政友会から立候補し衆議院議員に当選したが、在任2年で逝去した。また実業の面でも、大正8年組合製糸伊那社(後の天竜社)の組合長として地域の重要産業であった蚕糸業の発展に尽くしたほか、地元の電灯会社の設立をはじめ、天竜川電力・伊那電気鉄道・三信鉄道など電力や交通事業の設立、発展に尽力した。昭和9年、71歳で逝去している。



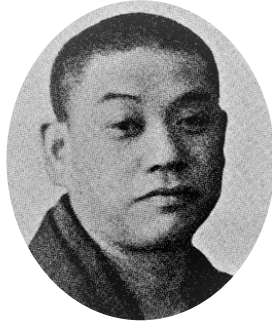
伍和村役場(『阿智村誌』)



組合製糸伊那社(旧扶桑館)(『阿智村誌』)

伊那電への県費補助に尽力

平野が県議員として尽力した事業で特筆されるのは、伊那電車軌道への県費補助がある。伊那電車軌道は明治40年9月に設立（社長辻新次）され、辰野から飯田まで66kmの電車運転を目指すと共に、沿線地域に電気の供給を行なった。創設当初は資金が集まらず事業の遂行が危ぶまれたが、県議会で事業

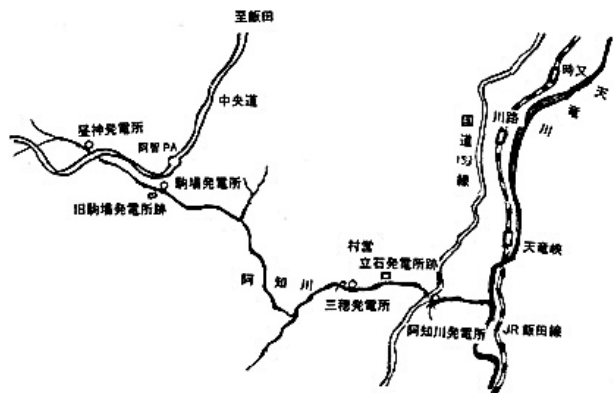


伊原五郎兵衛
（『伊那電気鉄道 開通記念』）

の意義が認められ、長野県初の軽便鉄道敷設費補助として30万2350円（明治45年から10年間）が実現し、経営危機を乗り越えることができた。平野は伊那谷の県議員としてその実現に尽力した。これを機に伊那電の経営者、伊原五郎兵衛との親交を深め、電力業、鉄道業等で協力しあい、伊那谷の発展に取り組んだ。

駒場水力電気社長

大正3年8月、下伊那郡会地村、伍和村（現阿智村）等を供給区域として駒場水力電気が設立（資本5万円）され、平野が社長に就任した。事業遂行には伊那電の伊原五郎兵衛が協力の手を差し出した。同年12月、阿知川沿いの駒場地区丈六原（現三穂発電所堰堤の100mほど上流）に、阿知川では初の発電所（35kW）が建設された。取水設備は牛枠と呼ばれる簡易な設備だったので、大雨が降ると流され、長期間の停電を余儀なくされた。このため、村民からの苦情が絶えず、施設の維持が難しくなり、大正6年5月、伊那電に買収された。伊那電では、昭和12年10月、



阿知川流域図

その上流に駒場発電所（5320kW）を建設、このため駒場の旧発電所は昭和10年に廃止された。現在は発電所の放水口跡が現地に確認される。



駒場発電所（伊那電気鉄道建設）
『伊那谷電気の夜明け』



旧駒場発電所放水口跡 筆者撮影

天竜川電力監査役

天竜川本流をせき止める大規模な発電所・ダム(大久保、南向、泰阜発電所)を建設したのは天竜川電力である。大正期に入ると天竜川には発電用の水利申請が相次いだ。県当局は異なる事業者がバラバラに建設するのではなく、統一的な開発を懇請し、大正15年3月、伊那電鉄はじめ9事業者がまとまって、天竜川電力が設立(社長：福沢桃介)された。地元では建設に関連して鉄道の敷設を強く要求し、大正14年3月に9地点一括の水利使用許可にあたり、許可条件として天竜峡から平岡村の県境までの間、一般の交通運輸に供すべき鉄道または軌道の敷設を命じた。天竜川電力(昭和6年8月、矢作水力に合併)

は大同電力主体で経営されたが、常務の1人は伊原五郎兵衛であり、監査役には地元を代表して平野が就任した。

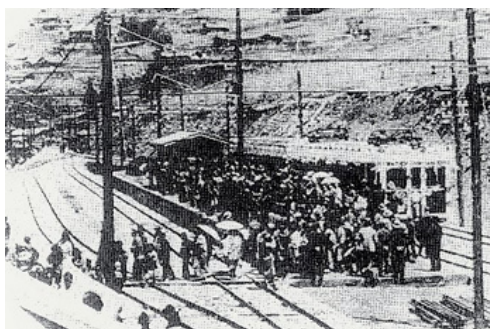


秦阜発電所 (中部電力提供)

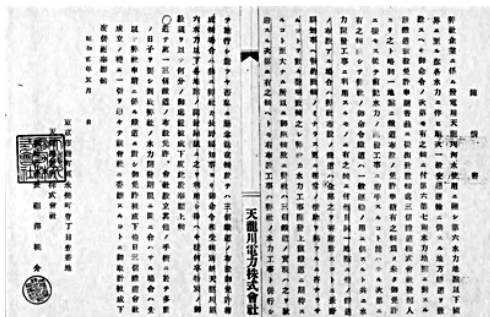
三信鉄道取締役

現在JR飯田線の一部となっている三信鉄道は、かつては鳳来寺鉄道と伊那電気鉄道とを結ぶ約70kmの鉄道であった。豊橋側の三信鉄道速成同盟会(代表神野三郎)、伊那谷側の南信連合町村会(代表伊原五郎兵衛)などが強く働きかけ、泰阜発電所等を計画していた天竜川電力と、佐久間地区に発電所(滝原・中部の2地点、現在の佐久間発電所)を計画していた東邦電力に、各々250万円の出資を要請した。天竜川電力は三信鉄道への出資が許可条件に該当するかを県知事に確認した上で同意した。平野は地元の世論喚起をわかり会社側の同意取付けに努め、契約調印の際は、伊原と共に立会人となった。昭和2年12月三信鉄道が創立され、社長には豊川鉄道社長の末延道成、専務には伊原五郎兵衛、監査役には平野が就任した。三信鉄道は昭和3年4月に着工し、10年の歳月をかけ、昭和12年8月に完成した。

(浅野 伸一)



三信鉄道開通の日(満島停車場 昭和11年4月)
(中部電力飯田支社「伊那谷電気」の夜明け)



天竜川電力の三信鉄道への出資に関する陳情書(国立公文書館蔵)